

山陽小野田市立小野田中学校 学校評価書 (平成21年3月)

校長名	久永 孝治
教育目標	自他の敬愛を基調とし、自ら学び、自ら考える意欲を培い、基礎的な学力と確かな判断力を備えた心身ともにたくましい生徒を育成する。
校訓	《健康明朗》 自他を敬愛し、心身の健康・安全に努める生徒 《清潔整頓》 身だしなみ、生活環境を整え、進んで奉仕する生徒 《勤勉努力》 果敢にチャレンジし、自ら学んで自己実現を図る生徒 《自主自律》 今、いかにあるべきか自問し、責任をもって行動する生徒
重点目標	①マネジメントサイクルでの学校改善 ②モジュールへの取組と「学力向上プラン」の実践 ③開かれた学校づくりの一層の推進
チャレンジ目標	<input type="checkbox"/> 時間厳守 <input type="checkbox"/> 校内美化 <input type="checkbox"/> 人権尊重
項目	内 容
取組状況	<p><input type="checkbox"/>生徒の授業評価(年2回)を生かした授業改善に取り組み、評価結果を地域・保護者に公表した。</p> <p><input type="checkbox"/>教員一人ひとりの授業力向上を図るため、相互授業参観による研修と研究授業(5回)を実施した。</p> <p><input type="checkbox"/>モジュール授業の充実と学力向上プランの作成・実践に取り組んだ。</p> <p><input type="checkbox"/>支持的な風土に満ちた学級づくりを母体とした、積極的な生徒指導を進めた。</p> <p><input type="checkbox"/>各種たよりにより、地域・保護者に学校情報を積極的に発信した。特に、保護者への案内・調査等は、全員を対象とした双方向の文書とした。</p> <hr/> <p>第1回の調査・評価を受けて、改善策として以下の通り取り組んだ。</p> <p><input type="checkbox"/>学年・学級内で抱え込まず、全校体制で支持的な風土づくり、生徒指導を進める。</p> <p><input type="checkbox"/>学力向上プランを着実に実践していく。</p> <p><input type="checkbox"/>相互授業参観は、導入部分、15分だけでもよいというように進めていく。</p>
目標の達成状況	<p>◎肯定者数の割合と評価(4段階)</p> <p><input type="checkbox"/>学校運営の質 … 教職員(91.5%) 4 生徒(84.3%) 3 保護者(86.8%) 3</p> <p><input type="checkbox"/>授業の質 … 教職員(80.1%) 3 生徒(72.5%) 2 保護者(81.4%) 3</p> <p><input type="checkbox"/>生活の質 … 教職員(82.4%) 3 生徒(83.6%) 3 保護者(80.9%) 3</p> <p><input type="checkbox"/>教職員の質 … 教職員(77.2%) 3</p>
取組の検証結果	<p><input type="checkbox"/>学年・学級の差が大きく、学年が下がるごとに低い達成率となっている。特に、1年では、学級の授業規律は35.2%、学級の授業満足度(楽しさ)は55.0%と極めて低い値になっている。授業と生活両面での集団づくりが急務であり、共通理解・共通実践の徹底が必要である。</p> <p><input type="checkbox"/>モジュール、学力向上プランは順調に小野田中方式ができつつある。さらに、次年度の時間帯変更に伴う内容・量に係る工夫・改善に取り組んでいきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>研究授業は計画的に実施したが、授業交流・参観をうまく進めることができなかった。負担の少ない、自主的な研修を構想したい。</p> <p><input type="checkbox"/>学校支援地域本部事業により、各自治会と連携した地域への情報提供や学校支援ボランティアによる多様な授業等が可能となった。学校側の支援ニーズをさらに開発していきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>数値化、量的測定により成果と課題をより具体的に把握し、指導に生かしていきたい。</p>

